

ぼうしの詩人賞

あつまれ！ 未来の中也たち！



ぼうしの詩人賞

「ぼうしの詩人賞」は山口市内の小学生・中学生を対象とした創作詩のコンクールです。

市内の小中学生が「中原中也」や「詩」に触れる機会を作るために2016年に創設、帽子をかぶった中也の写真のイメージから「ぼうしの詩人賞」と名付けました。

表彰にあたって、入選者による自作朗読の場を設けているのも、中也が朗読を好み、声を通じて詩作を人々に伝えていたことにちなんでいます。

第4回

応募総数 79 篇

応募校数 7 校

表彰式 2019年10月19日(土)
於 中原中也記念館

今回は、応募総数が79（小学生32、中学生47）篇と過去最高となりました。詩に関心をもつ子どもたちが増えていくことに、喜びと希望を感じながら選考にあたりました。

ぼうしの詩人賞「祖母」（川西中学校3年・松村歩美）。祖母の死を剥がれ落ちた鉄鍋の鏽に象徴した作者のとぎすまされた感覚は、見事です。また、視覚だけでなく、香り、味、音、手触りと繊細な感覚が、選び抜かれたことばで表現され、読む者的心を掴みます。始めと終わりの連の呼応も効果的な作品でした。

優秀賞4篇も作者の磨かれた感覚が光っていました。「いもうと」（湯田小学校1年・阿野晶弥）は、耳についたごはんつぶをあくせさりととらえた感覚に思わず微笑みました。兄弟の仲の良さ、やさしい家族愛が素直に伝わり、温かな気持ちに包まれました。私の敵とは何だろうと思いながら読み始めた「私の敵」（湯田小学校5年・又野莉瑚）は、タイトルと内容との距離感覚が、読み手を惹きつけました。敵を理解し、自ら反省し、挑戦しようとするプラス思考もとても素敵でした。「点Pの話」（附属山口中学校3年・池田美咲）。まず、題の付け方が魅力的です。そして、なんとなくその点Pを辿ってみたくなる楽しさがありました。しかも、点Pはまだまだ続いていくのです。作者と読者の内で。平和と戦争の対比をシンプルなことばでよくまとめていた「大地」（附属山口中学校2年・三浦雅登）。特に、最後の連で現在とつながっていると捉えたところに問題提示を感じられ、作品全体を引き締めています。

館長賞2篇に共通しているのは、発想の豊かさです。「空に花がさく」（湯田小学校2年・田中千晶）は、世界中の空にみんなの花が咲くという明るく鮮やかな着想で、スケールの大きさも感じさせてくれました。「pp（ピアニッシモ）」（大殿中学校3年・牛島惇）も題と内容との距離感に惹かれ、最後の連では視覚から聴覚への変化でぐっと詩の世界へと誘われます。

今回の応募で印象に残ったのは、小鯖小学校3年生からの作品です。授業で取り組まれたのでしょうか、工藤直子さんの「のはらうた」風の詩篇の中には、視点のおもしろさに感心するものがありました。「子どもの日」（小谷悠）、「ピョンピョン」（藤本航二朗）、「空をとぼう」（山本杏）などがそうです。これからもその感性豊かな視点を生かして詩を書き、応募してくれるのを楽しみにしています。

日々の生活の中で心が動いたことを書き留めてみませんか。うまく書けなくてもいいのです。まずはことばにしてみましょう。次は、そのことばを少し工夫してみましょう。そのためにも、いろいろな詩を読んでみましょう。今までの「ぼうしの詩人賞」の作品も何かを教えてくれるはずです。

審査員

- 上田 保明（元小学校校長・山口学芸大学講師）
佐伯 玲子（元中学校校長・山口県立大学非常勤講師）
三好 郁子（詩人）
福田 百合子（中原中也記念館名譽館長）
中原 豊（中原中也記念館館長）

ぼうしの詩人賞・最優秀賞

入選作品

「祖母」

まつむら あゆみ
松村 歩美さん (川西中学校3年生)

優秀賞

「いもうと」

あの 阿野 晶弥さん (湯田小学校1年生)

「私の敵」

またの 又野 莉瑚さん (湯田小学校5年生)

「点Pの話」

いけだ 池田 美咲さん (山口大学教育学部附属山口中学校3年生)

「大地」

みうら 三浦 雅登さん (山口大学教育学部附属山口中学校2年生)

館長賞

「空に花が咲く」

たなか 田中 千晶さん (湯田小学校2年生)

「pp(ピアニッシモ)」

うしじま 牛島 憲さん (大殿中学校3年生)